



「挨拶から広がる学びと成長の6月に」

校長 山中 卓

先日、来校されたお客様から、「子どもたちの挨拶がとてもしっかりしていますね」とお褒めの言葉をいただきました。日頃の積み重ねが、確かな姿として表れていることを大変うれしく感じています。

挨拶は、人と人をつなぐ大切な力です。

言葉を先につけ、お辞儀を後で行う「語先後礼(ごせんごれい)」、明るくはっきりとした声、場面に応じた会釈やアイコンタクトなど、挨拶にはさまざまな形があります。声が出せない時や恥ずかしさを感じる場面でも、「相手に気持ちを届けよう」とする姿勢は、必ず相手に伝わるものです。

社会に出ると、「自然に挨拶ができること」は大きな信頼につながります。お店や職場でも、気持ちのよい挨拶ができる人は、それだけで周囲に安心感を与えます。また、大きくなるにつれて「あいさつができないことは恥ずかしいこと」と受け止められる場面も増えていきます。当たり前のことを当たり前にできることは、将来、必ず自分を支える力になります。だからこそ、今のうちにしっかりと身に付けさせていきたいと考えています。

さて、子どもの日には、娘を連れて地域の須賀神社のお祭りに出かけました。そこでも、本校の子どもたちが笑顔で声をかけてくれました。学校の外でも地域の中で生き生きと過ごし、小さな子に優しく接したり、お祭りを盛り上げたりする姿に、頼もしさを感じました。

子どもたちは、学校だけで育つのではなく、地域の中で多くの人と関わりながら成長していきます。自分の住む街を大切に思い、地域に愛着をもつことは、とても大切なことです。そして、その第一歩も、やはり挨拶や人との関わりから始まるのだと思います。

一方で、校内では気になる姿も見られます。落ちているごみや整っていないロッカー、乱れた下駄箱など、「もう少し丁寧にできるのでは」と感じる場面があります。

人は、誰かに見られているところだけでなく、誰も見ていないところにも、その人らしさが表れるものです。落ちているごみを拾うこと、使った場所を整えること、履き物をそろえることなど、そうした小さな積み重ねが、人としての土台となっていきます。

こうした姿は、一朝一夕に身に付くものではありません。日々の生活の中で意識し、繰り返すことで、少しずつ自分のものになっていきます。だからこそ、学校生活の一つひとつの場面を大切にしていきたいと考えています。

6月は、水泳学習がスタートし、土曜参観や遠足、宿泊体験学習など、行事が目白押しの時期となります。子どもたちにとっては、どれも楽しい活動であると同時に、大きく成長する機会でもあります。集団での活動や役割を通して、仲間と協力することや、責任をもって行動することなど、日常の学習では得られない大切な学びも多く含まれています。一つひとつの行事に意欲的に向き合う姿を、ぜひ楽しみにしていただければと思います。

また、この時期は梅雨とも重なり、天候の変化に応じた過ごし方も大切になってきます。雨の日の過ごし方や体調管理などにも気を配りながら、その時々状況を理解し、自分で考えて行動することが求められます。こうした積み重ねが、自分で判断して行動できる力につながります。落ち着いた学校生活を送れるよう、引き続き指導していきます。

近年は、6月の段階でも熱中症への注意が必要です。十分な睡眠、朝食、水分補給を心がけ、元気に学校生活を送れるよう、ご家庭でもご協力をお願いいたします。

子どもたちには、「特別なことができる人」よりも、「当たり前のことを当たり前に続けられる人」に育ってほしいと願っています。毎日の挨拶や身の回りを整えること、仲間を思いやることなど、小さな積み重ねを大切にしながら、学校と家庭、そして地域が一体となって、子どもたちの成長をしっかりと支えていきたいと思っています。